

概要

- 久米島町かんしょ拠点産地育成に向けて、基腐病対策を重点的に指導してきた結果、**病害被害軽減による生産の回復**。
- さとうきびについては、巡回指導や各種取組支援により、**農家の土づくり意識が向上**。
- 農業青年クラブについては、**クラブ員の主体性が発揮**されたことによる**組織力の強化**。

具体的な成果

1 かんしょ

- 基腐病対策として「**輪作**」や「**苗消毒**」が定着。
- 基腐病対策として「輪作」、「苗消毒」、「**土壌消毒**」、「栽培期間中の**茎葉消毒**」、「**適期収穫**」の**5点を実施**する農家戸数が増加。（R4：1戸 → R5：3戸）



苗消毒



茎葉消毒

2 さとうきび

- 土づくりの**意識が向上**。
- pH測定結果を基にした**意酸度矯正**を実施する農家戸数が増加。（R4：0戸 → R5：2戸）



土壌分析(きび協)



酸度矯正資材の散布

3 農業青年クラブ

- クラブ員の**主体性向上**による組織力強化
- 勉強会や定例会、プロジェクト活動をとおして**学んだ技術を実践する**会員数が増加。（R4：1戸 → R5：4戸）



学んだ技術を実践する青年



プロジェクト圃場を管理する青年

普及指導員の活動

令和元～3年度

- かんしょ
 - ・「**輪作**」、「**苗消毒**」の重要性を巡回指導。
 - ・**展示ほを活用した各種対策の啓発**。立「**県内主力2品種の罹病率比較**」、「**銅剤の定期散布による被害軽減効果**」等。
- さとうきび
 - ・適期管理**巡回指導**、**生産法人の育成**、**久米島さとうきび振興協議会の土壌分析支援等**。ほ場の排水性を一筆ごとに調査し、**明渠、弾丸暗渠による湿害対策を推進・指導**。

令和4～5年度

- かんしょ
 - ・引き続き、**展示ほを活用した各種対策の啓発**。「**農業ローテーション散布による予防効果**」、「**土壌消毒による被害軽減効果**」等。
- さとうきび
 - ・上記に加え、**土づくりに係る取組を強化**。

令和元～5年

- 農業青年クラブ
 - ・**定例会や勉強会、現地実証試験の取組支援**を継続。

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門技術を有し、研究機関や他地域の技術を知る普及指導員だからこそ、**各種対策を提案し、地域に適した技術として定着させることが可能**。
- ・ 日頃から連携している優良農業者や研究機関、行政機関等の**関係者を結び付け、技術の波及を加速することができた**。

沖縄県

久米島町のかんしょ拠点産地の育成・さとうきび生産体制 の強化・農業青年組織の育成

活動期間：令和元年度～継続中

1. 取組の背景

久米島町のかんしょは、平成 24 年度にアリモドキゾウムシを根絶後、平成 26 年度には拠点産地に認定され、その後は順調に生産拡大が進み、県内一の産地となっている。しかし、令和元年度に「サツマイモ基腐病」が発生し、主力品種「ちゅら恋紅」は同病害への抵抗性が低いことから、生産量が大きく減少した。以来、厳しい状況が続いてきたが、新たな対策技術が開発されると共に、生産現場の粘り強い取組が継続されてきたことから、回復の兆しを見せている。

さとうきびについては、農家のみならず製糖工場や原料運搬事業者、機械作業受託事業者等、多くの事業者も関わる島の基幹作物であり、その生産体制を強化する必要がある。

また、農業青年クラブは、町内の農業青年で平成 27 年に再結成された農業青年組織で、現在は、繁殖牛・野菜・花き・かんしょ・さとうきび農家 10 名で構成されている。定例会や勉強会の開催、現地圃場における実証試験など、日頃から懸命に所得向上に向けて取り組んでおり、その継続と発展に向けた活動支援が必要となっている。

2. 活動内容（詳細）

かんしょについては、基腐病が発生した令和元年度よりその対策を重点的に指導しており、特に、「苗消毒」、「輪作」については、令和元年度当初から継続的に呼びかけている。巡回指導に加え、展示ほも活用した普及活動も展開しており、

- (1) 微生物資材を用いた対策（令和元年度）
- (2) 県内主力 2 品種の罹病率比較（令和 2 年度）
- (3) 銅剤の定期散布による被害軽減効果（令和 2～3 年度）
- (4) 風対策による病害予防効果（令和 3 年度）
- (5) 農薬ローテーション散布による予防効果（令和 4 年度）
- (6) 土壌消毒による被害軽減効果（令和 4 年度）
- (7) 適期収穫による被害軽減効果（令和 5 年度）

等、7 件以上を設置することで、対策技術の普及啓発を図った。

さとうきびについては、農家巡回時における適期栽培管理指導、事業申請書類作成支援や農作業安全講習会開催による生産法人の育成、久米島さとうきび振興協議会が実施する土壌分析や各種会議体開催等の活動支援に取り組んできた。特に近年は、肥料価格が高騰する情勢もあって、土づくりの面で

普及機関の役割発揮が期待されており、土壌分析の取組支援や、強酸性圃場の酸度矯正に関する取組を強化した。

農業青年クラブについては、定例会や勉強会、現地実証試験の取組支援に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大下においては、総会の書面決議や島外視察研修の見送りなど一定程度の活動停滞を余儀なくされたが、青年らの前向きな姿勢が挫けることはなく、リモート方式や録画教材を活用した取組など、新たな手法を用いた取組も見られた。

3. 具体的な成果（詳細）

かんしょについては、令和元年度の基腐病発生以来、粘り強く対策を呼びかけた結果、産地全体で「輪作」や「苗消毒」の重要性が理解され、多くの農家において実施される基本技術として確立された。令和5年度においては、これら2点の対策に加え、「土壌消毒」、「栽培期間中の茎葉消毒」、「適期収穫」の3点も含めた5つの対策実施を呼びかけたところ、3戸の農家が実践するに至った。なお、実施した農家からは、「栽培圃場すべてで対策を継続することはハードルが高いが、種苗圃に絞って徹底的に苗を守る技術としては期待できる。」とのコメントを得られ、優良種苗の供給体制強化による産地力の向上が期待される。

さとうきびについては、土づくりに対する意欲の向上が見られ、令和5年度において2戸の農家が pH 測定結果を基にした酸度矯正を実施し、他に複数の農家からも土づくりに取り組みたいとの相談を受けるなど、農家の意識に変化が見られた。

農業青年クラブについては、令和5年度において4名の会員が、勉強会や定例会、プロジェクト活動をとおして学んだ技術を実践し、所得向上に向けて意欲的に取り組む状況が確認された。また、プロジェクト活動の実施圃場をクラブ会員が自主的に巡回の上、作物の生育状況等をグループ LINE に写真付きで投稿する動きも見られ、主体性の向上による組織力の強化が図られる様子が見られた。

以上のとおり、農家の意識変革や意欲向上が見られ、実際の行動として現れたことが確認された。

4. 久米島町農業青年クラブ会員 Y 氏のコメント

人口が減少し、島の将来に不安感を覚えなくなる昨今の事情を踏まえると、若い担い手が農業で島を元気にすることは非常に重要であり、その点、我々農業青年クラブが果たす役割は非常に大きいと考えている。

しかし、日々の営農作業に追われ、クラブの活動を後回しにしてしまいがちであるため、普及機関からの働きかけはクラブ活動の活性化に重要な要素となっている。特に、島外専門家を招いた勉強会や、視察研修時の調整等については、普及機関にしか担えない役割も多いと感じており、クラブの活性

化と島の発展に向けて、今後も普及機関の役割発揮に期待したい。

5. 普及指導員のコメント

(南部農業改良普及センター久米島駐在)

久米島町のかんしょは、県内随一の生産量を誇り、アリモドキゾウムシが根絶されたこともあって、ブランド力の高い品目となっている。しかし、基腐病発生当初は非常に厳しい条件での生産を強いられ、一時は産地の存続も危ぶまれたと話す島民もいる。そのような中、農家や関係機関は必死に対策し、生産を継続してきた結果、現在の状況にたどり着いていることに敬意を表する。同時に、その取組を裏で支える一員であったろう過年度の普及員にも頭が上がらない。さとうきびや農業青年クラブの取組に際しても、農家や関係機関担当者は過去の普及員とのやりとりを明確に覚えており、長年継続された普及活動が現在につながっていることに敬服する。

今後とも、これまでの普及活動を継承しつつ、スマート農業やSDG's等、新規性の高い分野も見据えた普及活動を展開し、久米島町の農業振興に貢献できるよう取り組んでいくことが重要である。

6. 現状・今後の展開等

かんしょについては、農家や関係機関の尽力により、基腐病被害は大幅に減少し、生産の回復が見られる。一方で、警戒が弱まり、対策を省略する状況も一部では見受けられるので、引き続き、気を引き締めて対策するよう啓発する必要がある。

さとうきびについては、土づくりを実施した農家が取組を継続し、その効果が地域全体へ波及するよう支援することが重要である。

農業青年クラブについては、定例会等の開催支援や現地実証の取組支援を継続し、クラブ員の主体性発揮による組織力の強化を図る。